

◎元旦礼拝聖句 説教題「深みに漕ぎ出せ」

(ヨシュア記3章14～17節、ルカの福音書5章1～11節)

「全地の主である主の箱を担ぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまるとき、ヨルダン川の水は、川上から流れ下る水がせき止められ、一つの堰となって立ち止まる。」(13) 「イエスはシモンに言われた。『深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。』と言われた。」(4)

◎「一年の計は元旦にあり」とあります。コロナ禍も沈静化する中、変異株オミクロンが出て、感染拡大の不安と恐れの中で、いつもみ言葉に聞き、み言葉によって生きることを追い求めましょう。

◎ヨシュア記3章の主題は「ヨルダン渡河」です。これはきよめの経験の過程として教えられます。①「ヨシュアは翌朝早く、イスラエルの人全部と一緒に、ヨルダン川の川岸まで行き、それを渡る前に、そこに泊まった」(1)。これは準備し、待機する様子です。②「主の契約の箱を見、それをかついでいるのを見たなら、そのうしろを進まなければならない」(3)。主の契約の箱は神の臨在(出エジプト25:10-22)の徴で、十戒を記した石の板が納められていた(申命10:1-5)。み言葉と主の臨在に導かれた旅であった。③「あなたがたの身をきよめなさい」(5, 出エジプト19:10-15、民数11:18、ヨシュア7:13)。自分自身を神に明け渡し、神の所有とされている事を確認することが大切です。④「契約の箱をかつぎ、民の先頭に立って渡りなさい」。み言葉に立って信仰によって出かけることが大切です。⑤「ここに近づき、あなたがたの神、主のこばを聞きなさい」(9)。祭司も民も、み言葉による保証を受けることが大切です。⑥「部族ごとに一人選び出しなさい」(12)。一人ひとりが一致して共に進むことが必要です。⑦起こった出来事を感謝し、記念することです。

◎ルカの福音書5章1～11節の主題は漁師を弟子にするです。主イエス様は舟を降りて網を洗っている漁師たちを見、「シモンの持ち舟」に乗り込まれ話をされ、話が終わるとシモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして、魚をとりなさい」と命じられたのです。その時、シモンは「先生、私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした」と徒労に帰した現実を告白したのです。しかし、主イエス様はすべて知った上で語っておられるのです。ですからシモンは「でもおことばとおり、網を降ろしてみましょう」と御言葉に従ったのです。かつて熱病で苦しんでいたシモンの姑がイエス様によって癒されたことがあるのです(4:38,39)。シモンが、従ったとき常識ではあり得ない事が起こったのです。もう一艘の舟にも応援を求め、それぞれが一杯になる程、大漁に浴したのです。そのことに漁師たちは「驚いた」だけでなく、シモン・ペテロは「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから」と主イエス様の前に跪いたのです。「ゼベダイの子ヤコブとヨハネ」も同様であったのです。その時、主イエス様はシモンに「こわがらなくてもよい。これから後、あなたは人間をとる漁師になるのです」と招かれたのです。①イエス様は「罪人を招いて、悔い改めさせるために来」られたのです(5:31)。②「イエスは主である」と告白することにより、その人を変え、豊かな新しい人生に変えてくださるのです。いつも主の招きに従いたいものです。